

すぐになかなおり

小 三

わたしは、A君とけんかになった。A君は、わたしの足をふんだ。

そして、A君は、こう言った。

「なんだよ。」

わたしは、

「何もしてないよ。」

と言った。

「何かしたよ。」

と言われて、わたしは、むっとした。そして、しかえしをしてしまった。その時、BちゃんとC君

がけんかを止めてくれた。

一年生の時は、いつもみんなで遊んでいて、とってもなかなよしかった。二年生のころも、少しはけんかもした。あんなに楽しかったのに、今はけんかが多いなどわたしは思った。いろいろ考えていたら、とてもむねがどきどきした。チャイムが鳴った。わたしはA君のことを見た。A君は、わたしをにらみ始めた。じゅ業が始まった。A君がにらんでいると考えることは、むねのおくにおいておこうとした。しかし、けんかのことを、わすれることはできなかつた。

わたしは、心の中で、なかなかお
りをするこの考えがまとまっ
た。A君、さつきはごめんねと、
思った。

二時間目が終わった。A君のせ
きに行った。わたしは、こう言っ
た。

「A君、さつきは、たたいたりし
てごめんね。」

すると、A君も

「ぼくも悪かった。本当にごめん
ね。」

と言って、A君とわたしはなかな
おりができた。そしたらBちゃん
とC君もえ顔になった。

わたしは、こう思った。なかな
おりっていいね。
そして、A君とわたしの二人も
え顔になった。
え顔って、いいね。

